

略 歴

浅利佐助 あさりさすけ 1844～1920

- 弘化元年 花輪新町に生まれる。幼名重次郎、私塾に学び向学心の強い人だった。
- 明治5年 醤油が一般家庭に必ず普及することを信じ、私財を投じて浅利商店創業。
- 10年 醤油税のため、どん底に落ち死を決意するが、成田山信仰を得て再起。
- 10年 早朝より大八車を引き天秤をかついで行商し、小田島郡長よりその奮闘ぶりを激励される。その恩義に応えるため更に努力した。
- 30年 土蔵改築を契機に、作業時間などを定め、経営の近代化を図る。
- 43年 秋田県味噌醤油組合発足し、初代組合長に推され県内第一の業者となる。
- 大正9年 郷土産業振興にも寄与し、7月28日、苦闘77年の生涯を閉じた。

宮城佐次郎 みやぎさじろう 1881～1951

- 明治14年 花輪牛乳川又善助二男として生まれ30年5月叔母宮城家の養子となる。
- 31年 花輪小学校卒業後、花輪小学校准指導奉職。
- 37年 秋田県師範学校卒業後尾去沢尋常高等小学校訓導、その後曙、大湯、尾去沢、毛馬内、花輪の各小学校長を歴任して昭和7年に退職。
- 昭和6年 小学校教育の功績顕著により表彰される。勲八等瑞宝章受章。
- 7年 花輪町の委嘱を受け「花輪町史」を編纂。
- 9年 尾去沢村長就任、11年10月町制施行により町長就任、16年辞任。
- 22年 花輪町立花輪図書館長兼花輪町史編纂員、26年6月死去、享年71歳。

伊藤良三 いとうりょうぞう 1883～1964

- 明治16年 毛馬内の桜庭家の家臣伊藤文七の長男として生まれた。
- 35年 秋田師範病気で退学後、東京の哲学館（現東洋大学の前身）に入学。
- 39年 帝国学士院に勤め数多くの学者と交わり、後、東京の小学校訓導となった。
- 45年 青森県立八戸中学校教諭となり、大正14年弘前高等女学校教諭となった。
- 昭和2年 恩師和田喜八郎の依頼で秋田師範学校の教授嘱託として勤めた。
- 6年 当時の県知事の要請で秋田県立盲啞学校の初代校長となった。
- 9年 毛馬内町長となり、長期にわたり町政を担い、その改革に努めた。
- 30年 十和田町長となり同34年8月辞任した。同39年4月16日逝去。享年82歳。

立山林平 たてやまひらべい 1888～1918

- 明治21年 毛馬内の素封家、立山周助・リヨの長男として下小路に生まれた。
- 毛馬内小学校、県立大館中学校、第二高等学校、東京帝国大学数学科と進み、すべて首席で通した。
- 39年 大館中学校卒業時総代として自筆の答辞を述べた。それが保存されている。
- 45年 東大2年時「ダビッド・モルレー博士記念数学賞」を受賞し注目された。
- 大正3年 第八高等学校講師数学担任、大正4年第五高等学校教授、正七位。
- 4年 即位礼、大嘗祭大饗に宮内大臣より招待を受け出席した。
- 7年 病歿、享年31歳。なお一人娘隆は書家故石田白樹夫人で書家でもある。

阿部貞一 あべていいち 1895～1950

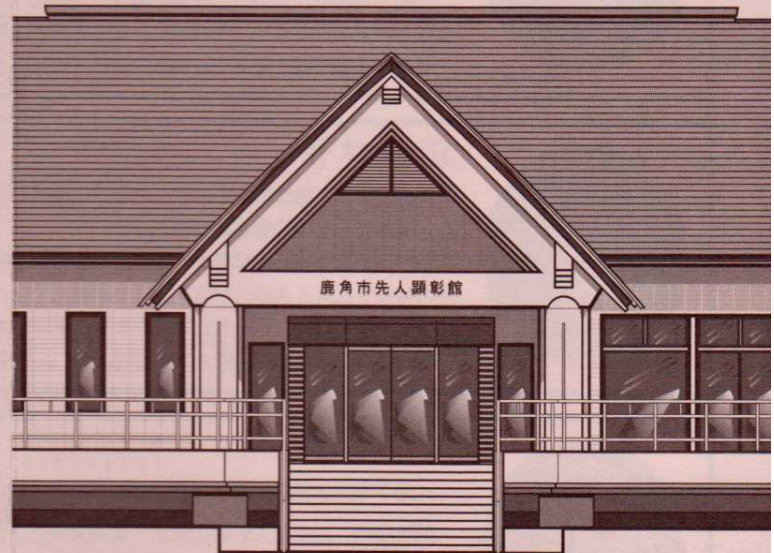
- 明治28年 5月12日、阿部重剛の長男として八幡平長嶺和田に生まれた。神田の工手学校電工科卒業後日本電灯会社に就職、帰郷し三菱尾去沢鉱山に勤務。
- 大正8年 尾去沢鉱山永田発電所・碓発電所主任となる。低落差発電の改良、鉱業用発電の夜間余剰電力利用で、村の電化を計画した。
- 10年 村の電化を目的に南鹿産業組合を結成。余剰電力利用、資金に目途つく。
- 11年 宮川・曙両村で南鹿電気株式会社設立。初めて村内に電灯がともる。
- 昭和3年 姫の湯ホテル創立、八幡平国立園指定を前に同8年藤七温泉開業。
- 25年 7月6日、八幡平観光開発という壮大な夢を残し、55歳の生涯をとじた。

精神文化の礎を築いた人々…

先人顕彰シリーズ⑤

当先人顕彰館は、鹿角にゆかりの深い先人に関する資料の発掘収集、保存、事跡の調査研究と公開展示をいたしております。

世界的な東洋史学者「内藤湖南」、十和田湖の開発に尽力した「和井内貞行」の両氏をメインに常設展示し、さらに各界の先覚者を順次展示紹介してまいります。



鹿角市先人顕彰館 TEL 0186-35-5250
〒018-53 秋田県鹿角市十和田毛馬内字柏崎3番地の2



浅利 佐助

あさり さすけ
1844~1920

醤油醸造業の基礎を築いた

明治初期、一代にして秋田県内第一の醤油醸造高を誇る浅利商店の基礎を築いたのが浅利佐助である。佐助は弘化元年花輪新町に生まれ、少年のころ家業手伝いの傍ら、袋丁川村寛平の私塾に学んだ。29歳の時、新しい世の中では必ず一般家庭にも醤油が普及すると信じ、多くの私財を投じた。当初は好調に発展したが、西南戦争後の不況対策として、政府は醤油にも課税し、そのため家業もどん底に落ち行き詰まるが、成田山信仰を得て再起した。好きな酒も断ち、生命の限り働き、今日の基礎を築いた。



宮城 佐次郎

みやぎ さじろう
1881~1951

教育と地方自治に貢献

鹿角の各地小学校長を歴任、また地域の実業・補習・専修学校の訓導、校長として青少年教育の振興に努めた。昭和9年尾去沢村長。11年10月町制施行により町長に就任、11月尾去沢鉾山中沢鉾沢ダム決壊による大災害被災者の救援、壊滅的被害を受けた町の復興を期し日夜専念、新しい町づくりの市街計画に苦心、早期実現に献身した。文筆詩歌に優れ雅号を「一杉」といい多くの文人と親交があり、早くから八幡平の優れた景観の紹介に努めた。郷土の歴史を研究し「花輪町史」や「尾去沢鉾山小史」などを編著した。



伊藤 良三

いとう りょうぞう
1883~1964

教育と長期の町政に尽くす

病気のため秋田師範を中退したが文検に合格し教員となった。教え子から敬慕され音信を欠かさなかった生徒に農林大臣、立教大学総長、青森県知事、八戸市長などがいる。昭和2年秋田師範学校長より教授嘱託を懇請され勤めた。また盲啞学校の統合や、県立学校への昇格にも尽くした。昭和9年町政改革時代、毛馬内町会から満場一致で町長に推され、町づくりに努めた。その後錦木・大湯との合併による初代十和田町長となり、長期間にわたって町政に尽くした。なお、毛馬内郷土史稿や資料集の編纂、執筆にも当たった。



立山 林平

たてやま りんぺい
1888~1918

将来を嘱望された天才数学者

東京帝国大学数学科2年在学中に世界に権威あるアメリカの「ダビットモルレー博士記念数学賞」と金五拾円を授与され、新進数学者として注目をあつめた。小学校から東京帝大卒業まで常に首席を占めた神童であった。中学校の時に東京数理学会に入会して高等数学を学び、4年生の時すでにスミスの大代数を独学で習得していたという。スポーツ・芸能にも優れた才能をもち、テニス・柔道・バイオリン・琴・尺八・将棋・盆踊りなど大変な腕前であった。学者として前途を嘱望されながら若くして病に倒れた。



阿部 貞一

あべ ていいち
1895~1950

農村電化・観光事業の先覚者

八幡平地区は大正末期まで家庭ではランプをともしていた。明治後期、三菱尾去沢鉾山永田・碓両発電所は稼働していたが鉱業用であり、発電所電気主任として村の電化の必要性を痛感し、低落差発電の性能の改良、夜間余剰電力の利用を村の有志と計画し、実現できるようにと奔走した。大正11年宮川・曙両村で南鹿電気株式会社を設立、技師長として工事を進め、この年初めて家庭に待望の電灯がついた。日本電研設立の傍ら湯治宿を購入し、昭和3年姫の湯ホテル創立、また八幡平国立公園指定を前に藤七温泉を開業した。